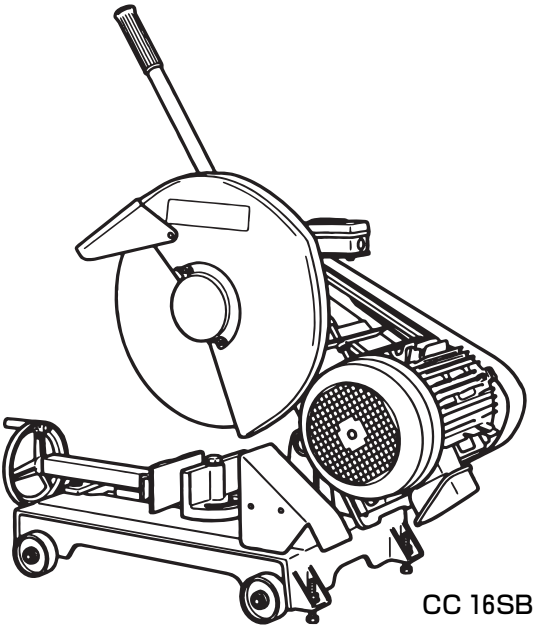
Hitachi Koki

日立高速切断機

405㎜ CC 16SB

取扱説明書

このたびは日立高速切断機をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



CC 16SB（5HP）

HITACHI

目　　次

ページ

電動工具の安全上のご注意 …… 2

高速切断機の使用上のご注意 …… 5

各部の名称 …… 8

仕　　様 …… 9

標準付属品 …… 9

用　　途 …… 10

作業前の準備 …… 10

ご使用前に …… 13

切断する前に …… 16

切断方法 …… 17

トイシの取付け・取りはずし …… 19

保守・点検 …… 20

ご修理のときは …… 裏表紙

⚠警告、⚠注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- **火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠ 警　告

① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
  （例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⚠ 警　告

⑨ 保護メガネを使用してください。
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用しない、または修理する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。
- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑰ 不意な始動は避けてください。
- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
- 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⚠ 警　告

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものは、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
  ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

高速切断機の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、高速切断機として、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警　告

① 本機は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
詳細は、P13「1.使用電源を確かめる」の項を参照してください。

② ホイルカバー、サブカバー、保護カバーは、必ず取付けて使用してください。
取付いていないと、トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

③ 本機は、トイシを使用して金属を切断する工具です。指定以外の用途に使用しないでください。
思わぬけがの原因になります。

④ 指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。
丸のことしての保護装置がなく、けがの原因になります。

⑤ 使用するトイシは、トイシに表示されている最高使用周速度が機械に明示してある周速度以上の補強入りレジノイド切断トイシを使用してください。
正規以外のトイシを使用すると、トイシが破壊し、けがの原因になります。

⑥ トイシの外周面以外は、使用しないでください。加工物の切断、または凹部、溝などを加工するとき、トイシをこじることがないようにしてください。
使用中にトイシが破壊し、けがの原因になります。

⑦ トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。

⑧ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。
火災ややけどの原因になります。

⑨ 本機は乾式用ですから、水、研削液などは使用しないでください。
水・研削液などを使うと、トイシの破壊によるけがや感電の恐れがあります。

⑩ 使用中は、トイシに手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。

⚠ 警　告

⑪ 作業中は必ず保護メガネをご使用ください。粉じんが出る場合はマスクもつけてください。

⑫ トイシを交換する場合は、この取扱説明書の手順に従って確実に行なってください。

トイシの締付けボルトがゆるんだまま使用すると、トイシがはずれ、けがの原因になります。また、締めすぎも、トイシをいためることになり、トイシの破壊の原因になります。必ず付属の工具で、正しく締付けてください。

⑬ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑭ 誤って落としたり、ぶつけたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⑮ 必ずアース（接地）してください。

故障や漏電などのとき、感電のおそれがあります。

詳細は、P 10「2．アース（接地）、漏電しゃ断器の確認」の項を参照してください。

⑯ 延長コードを使用するときは、アース（接地）線を備えた 4 心キャブタイヤケーブルを使用してください。

アース（接地）線のない 3 心コードですと、感電の原因になります。

⑰〔事業者の方へ〕トイシの交換・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行なわせてください。

関連法令　労働安全衛生法　第 59 条
労働安全衛生規則　第 36 条
安全衛生特別教育規程　第 2 条

⚠ 注　意

① **傾斜のない平たんな場所にすえ付けて、安定した状態にしてください。**
不安定な状態では、作業中、材料が動いてトイシが破壊し、けがの原因になります。

② **トイシや付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
ゆるんだり、はずれた場合、けがの原因になります。

③ **新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの正面位置から必ず一時身体を避けてください。**
トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

④ **試運転を励行してください。**
試運転時間はトイシ交換のとき：3分間以上
その日の作業始めのとき　　：1分間以上　です。
試運転せずに作業を開始すると、思わぬけがの原因になります。

⑤ **高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。**
またコードを引っかけたりしないでください。
材料や機体などを落したとき、事故の原因になります。

⑥ **騒音から耳を保護するため、耳栓を着用してください。**

⑦ **材料は、本体付属のバイスで確実に固定してください。**
材料の固定が不十分ですと材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因になります。

⑧ **トイシは、水分や湿気のない乾燥した場所に保管してください。**
水分や湿気によって強度が低下し、トイシ破壊の原因になります。

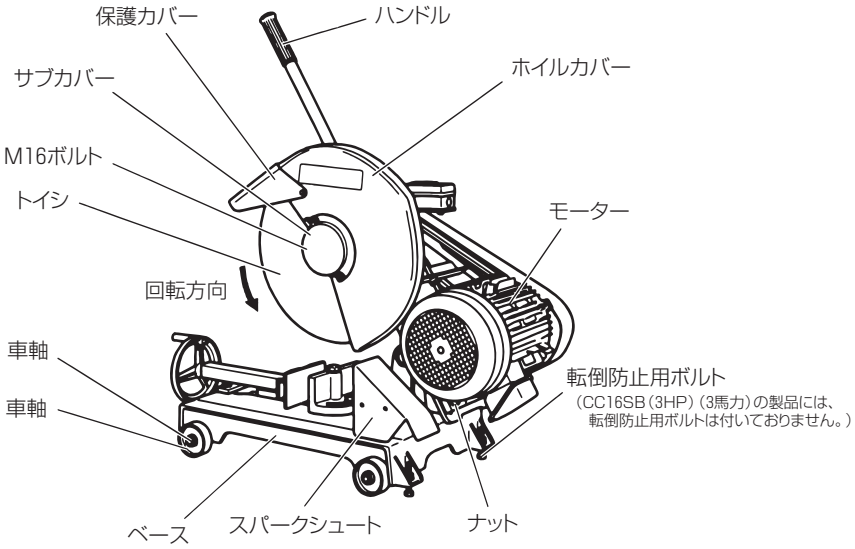
⑨ **回転させたまま、放置しないでください。**
けがの原因になります。

⑩ **切断する材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に乗せたまま作業しないでください。**
手を切ったり、コードを切断して、感電につながる恐れがあります。

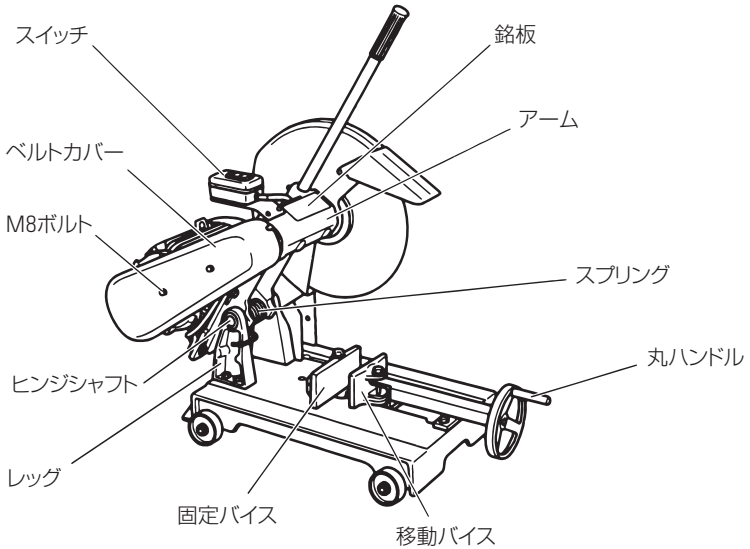
⑪ **切断直後の材料は、高温になっているので触れないでください。**
やけどの原因になります。

○騒音防止規制について
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

各部の名称



CC 16SB (5HP)

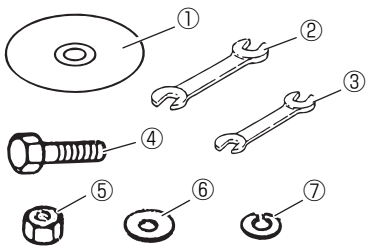


CC 16SB (5HP)

仕　　様

形　　名		CC 16SB（3HP）（3馬力）	CC 16SB（5HP）（5馬力）
使　用　電　源		三相交流 50／60Hz 共用　電圧 200 V	
モ　ー　タ　ー		全閉外扇形 2.2 kW 4 P	全閉外扇形 3.7 kW 4 P
全 負 荷 電 流		9.0 A　50Hz 8.6 A　60Hz	16.0 A　50Hz 14.8 A　60Hz
使用できる刃物		最高使用周速度が 63 m／s {3800 m／min} 以上の 補強入りレジノイド切断トイシ	
使用できるトイシ寸法		外径 405 mm×厚さ 6 mm以下×穴径 25.4 mm	
トイシ軸回転数		2290 min⁻¹ {回／分} 50Hz 2730 min⁻¹ {回／分} 60Hz	2430 min⁻¹ {回／分} 50Hz 2900 min⁻¹ {回／分} 60Hz
無負荷トイシ周速度		48 m／s {2910 m／min} 50Hz 57 m／s {3470 m／min} 60Hz	51 m／s {3090 m／min} 50Hz 61 m／s {3690 m／min} 50Hz
最大切断寸法	直角	丸棒　外径 75 mm 丸パイプ　外径 135 mm アングル　幅135 mm×高さ 135 mm	
	45°	丸棒　外径 50 mm 丸パイプ　外径 125 mm アングル　幅120 mm×高さ 120 mm	
バイス最大開き		230 mm	
質　　量		84.0 kg	91.0 kg
Vベルトサイズ		3 V－375（2本）	

標準付属品



① トイシ（本体付属）（厚さ 2.8 mm）… 1 枚
② 両口スパナ（19 mm× 24 mm）…… 1 個
③ 両口スパナ（13 mm× 17 mm）…… 1 個
④ ボルト（M 10）…… 2 個
⑤ ナット（M 10）…… 4 個
⑥ ボルトワッシャ（M 10）…… 4 個
⑦ スプリングワッシャ（M 10）…… 2 個

注 **• CC 16SB（3HP）（3馬力）の製品には③～⑦は付いておりません。**

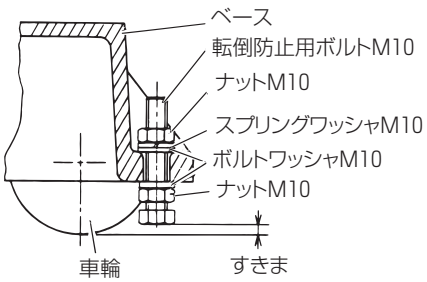
用　　途

○ 軟鋼パイプ（水道管、鋼管など）の切断
○ 軟鋼形鋼（アングル鋼、チャンネル鋼など）の切断
○ 軟鋼丸棒の切断

作業前の準備

ご使用前に次の準備をすませてください。

1．すえ付け



本機は、可搬式で車輪がついています。傾斜のない平坦な場所にすえ付け、移動しないよう車輪にくさびなどを入れてください。

また、5 HP（5馬力）の製品は、重心位置がモーター側にありますので、付属の転倒防止用ボルト（2本）を取付けてご使用ください。
（P 8「各部の名称」の図、左図参照）

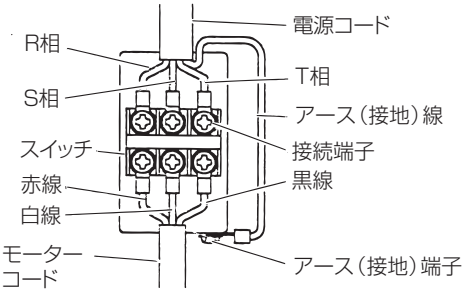
2．アース（接地）、漏電しゃ断器の確認

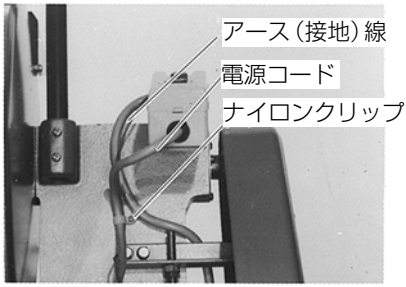
ご使用にさきだち、本機が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断装置（以下、漏電しゃ断器と言います）が設置されていることを確認してください。

本機は必ずアース（接地）をしてください。定格感度電流15 mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作型の漏電しゃ断器が設置されている電源でお使いになる場合でも、より安全のためアースされるようおすすめします。

地中に接地極（アース板、アース棒）を埋め、アース線を接続するなどの接地工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

3．本体に電源コードを接続する





スイッチをあけ、接続端子に電源コードを接続してください。（上左図）

電源コードは心線が 2 ㎜²以上の 4 心タイヤケーブルを使用してください。

電源コード接続後、本体にナイロンクリップが付属してありますので、上右図にように電源コードを押さえてください。

また、 3 心キャブタイヤケーブルを使用し、別にアース（接地）線を設ける場合は、アース（接地）線が回転部に触れないように電源コードに巻き付けてください。（上右図）

4．電源の接続とアース（接地）

⚠ 警　　告

- **アース（接地）線をガス管に取付けると爆発のおそれがありますので、絶対にしないでください**

電源とコードの接続は次のようにしてください。

(1) 電源コードのアース（接地）線（上左図、上右図参照）を電源のアース（接地）に接続してください。

(2) 電源コード（上左図参照）のＲ相、Ｓ相、Ｔ相の線を電源のＲ相、Ｓ相、Ｔ相に接続してください。

(3) アース（接地）線は念のため、断線、接続不良がないことを確認してからご使用ください。

5．延長コード

⚠ 警　告
• 延長コードは、損傷のないものを使用してください。

電源がはなれているときは、電流を流すのに十分な太さの延長コードをできるだけ短くして使用します。

コードの太さ（mm²）	最大長さ（m）
2	15
3.5	30

左の表は、コードの太さ（導体公称断面積）によって、機体に使用できるコードの最大長さを示します。

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

延長コードは必ずアース（接地）できるアース（接地）用の１心をもつ４心キャブタイヤケーブルをお使いください。

6．作業環境の整備・確認

作業する場所がＰ２「電動工具の安全上のご注意」①、②、④項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

7．ハンドルを引き出す

出荷時には、ハンドルをモーターの方へ押し込んでありますので使用しやすい位置までハンドルを引き出し、２本のプラスなべねじで締めてください。（Ｐ８「各部の名称」の図参照）

8．防錆剤のふき取り

新品の場合は、ベース、バイス面にさび止めの油が塗ってありますから、ご使用前には、砂、土、ほこりなど付いていない木綿の布などでふき取ってください。

ご使用前に

⚠ 警　告

• ご使用前に次のことを確認してください。1～7項については、電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。

1．使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電圧でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、トイシや機体が破損する恐れがあります。また、直流電源、エンジン発電機および昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2．スイッチが切れていることを確かめる

⚠ 警　告

• スイッチが「ON」になっているのを知らずに元電源を入れると不意に機体が起動し、思わぬ事故の原因になります。

スイッチ（P 8 の図参照）「ON」ボタンを押すと入り、「OFF」ボタンを押すと切れます。スイッチが切れていることを必ず確認してください。

3．トイシを確かめる

⚠ 警　告

• トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。

トイシは、正規のものか、またヒビや割れがないか十分確認してから使用してください。

4．トイシの締付けを確かめる

トイシの締付けを念のため確かめてください。詳しくはP 19「トイシの取付け・取りはずし」の項を参照してください。

5．ホイルカバー、サブカバー、保護カバーの確認

⚠ 警　告

• ホイルカバー、サブカバーおよび保護カバーは必ず取付けて使用してください。
トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

ホイルカバー、サブカバーは、身体がトイシに触れる事故を防止するものです。また、トイシが破壊したときのトイシの飛散と研削火花の飛散を防止するものです。従って、ホイルカバー、サブカバーおよび保護カバーを取りはずして使用することは絶対にしないでください。

6．トイシの面振れ点検

トイシ軸を付属の両口スパナ（19 ㎜× 24 ㎜）でトイシ軸端面から見て時計方向へまわし、トイシの面振れを点検してください。面振れが大きいと正確な切断ができなくなります。また、振動の原因になります。
この場合、速やかにお買い求めの販売店にお問い合わせください。

7．ベルトの張りを確かめる

⚠ 注　意

• ベルトの張りが強すぎるとモーターが損傷したり、弱いとベルトがスリップし、十分な能力が得られません。

ベルトの張りが適正であることを確認してください。詳しくはP 21「ベルト張り」の項を参照してください。

8．コンセントの点検

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。
そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

9．試運転を行う

⚠ 注　意

- **機体のスイッチを入れるときは、機体のトイシが切断材料などに接触していないことを確認してください。**
  接触していることを知らずにスイッチを入れると、トイシが破壊することがあり、けがの原因になります。
- **新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシ正面位置から必ず一時身体を避けてください。**

トイシにヒビ・割れがあるのを気づかずに作業しますとけがの原因になります。

作業前には、トイシ正面位置から必ず一時身体を避けるとともに、他人のいない方向にトイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は

トイシ交換のとき ―――――― 3分間以上
その日の作業始めのとき ――― 1分間以上　　です。

10．回転方向の確認

⚠ 警　告

- **逆転を続けると、トイシ締付ボルトがゆるみ、けがの原因になりますので、直ちにスイッチの「OFF」ボタンを押し、運転を停止してください。**

スイッチの「ON」ボタンを押したとき、トイシがP 8「各部の名称」上図の矢印の方向に回転するのが正常です。

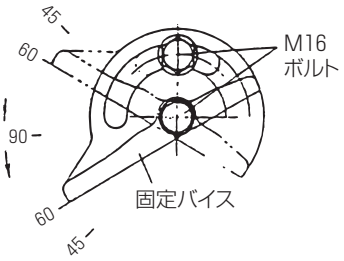
逆回転する場合は、スイッチを「OFF」にし、元電源を切って、電源コード（P 11 左図参照）のR相とT相をつなぎ替えてください。

切断する前に

1．切断角度の設定

⚠ 警　告

• 切断角度設定後、M 16 ボルト（2 本）を確実に締付けてください。
締付けが不十分ですと切断時に、固定バイスが動き切断精度が悪くなるばかりでなく、材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因になります。



この機体は左右 45 度までの角度切断ができます。（角度目盛は 90 度、 60 度、 45 度のみ）付属のスパナ（24 mm）で M 16 ボルト（2 本） をゆるめ、固定バイス面を左図のように目盛に合わせれば、角度が設定できます。

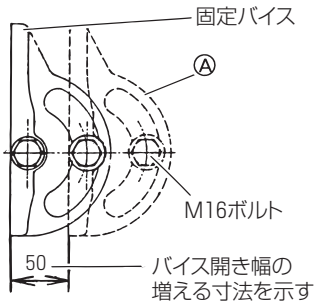
角度の設定後、M 16 ボルト（2 本）を確実に締付けてください。

2．バイスの開き幅を広げる方法

⚠ 警　告

• 固定バイス移動後、M 16 ボルト（2 本）を確実に締付けてください。
締付けが不十分ですと、切断時に固定バイスが動き切断精度が悪くなるばかりでなく、材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因になります。

注　• バイスの開き幅を大きくすると角度切断はできません。



M 16 ボルトをゆるめ、固定バイスを後方に移動すると、バイスの開き幅（固定バイスと移動バイスの材料接触面の最大距離）を広げることができます。2 段階に広げることができます。

左図のように Ⓐ 位置に固定バイスを移動し、固定すると、バイスの最大開き幅は 180 mmが 230 mmになります。

切断方法

⚠ 警　告
• **トイシを回転させたまま材料の取付け、取りはずしをしないでください。** 材料がトイシに巻き込まれて飛散するなど、けがの原因になります。

1．スイッチの操作

スイッチ（P 8 の図参照）は、「ON」ボタンを押すと入り、「OFF」ボタンを押すと切れます。

2．材料の固定

⚠ 警　告
• **材料は、本体付属のバイスで確実に固定してください。** 材料の固定が不十分ですと材料が飛んだり、トイシが破壊してけがの原因となります。

固定バイスと移動バイスの間に材料をはさみ、丸ハンドルを回して材料を確実に固定してください。

切断が終わったら、丸ハンドルを回してゆるめ、材料を取りはずしてください。

アングル鋼の固定方法

材料がアングル鋼、チャンネル鋼の場合は、必ず①～③図のように固定してください。
アングル鋼を④図のように固定しないでください。
④図の状態で固定し、切断すると材料が動き、切断精度が悪くなる場合があります。

①	②	③	④
アングル鋼	アングル鋼	チャンネル鋼	

3．切断作業

⚠ 警　告

- **作業中は必ず保護メガネを使用してください。粉じんが出る場合は、防じんマスクもつけてください。**
- **騒音から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。**
- **トイシに割れが発生した場合は、ただちに使用を中止してください。**
  トイシが破壊し、けがの原因になります。
- **切り落し側が薄い場合は、切断後、トイシが完全に停止してからハンドルを持ち上げてください。**
  トイシを回転させたままハンドルを持ち上げると、切り落した材料がトイシと接触して飛散することがあり、けがの原因になります。
  また、１回の切断または切り込みが終わるごとに、スイッチを切ってトイシの回転が停止したのを確認し、切り落した材料を取除いてから、次の段取りをしてください。
- **材料を切断するときは、引火しやすいもの、傷付きやすいものは、遠ざけてください。**
- **切り落した材料・切りくずは高温になるので、素手でさわらないでください。**
- **切削油などを付けて切断しないでください。**
  切削油・切削液およびワックスなどの種類によっては、切断時の火花で発火する場合があります。
- **万一の事故を防止するため、作業後は必ずスイッチを切り、主電源を切っておいてください。**

⚠ 注　意

- **ハンドルを急激に押し下げてトイシを材料に強く当てないでください。トイシのヒビ、割れの原因になります。**
- **万一、切断中にトイシが停止した場合は、ただちにスイッチを切り材料からトイシをはずしてください。**
  その後、無負荷運転を行い、異常のないことを確認してください。

注 • **切込むとき、ハンドルに力を入れすぎても早く切れません。力を入れすぎるとモーターに無理をかけ能率も悪くなります。**
一番火花が出る状態で切断すると能率が上がります。

⑴ スイッチを入れトイシの回転が完全に上がって安定してから、ハンドルを静かに下げて材料に近づけます。

⑵ トイシが材料に接触したら、ハンドルを徐々に押し下げて切込みます。火花が一番出る状態を目安に切込んでください。

⑶ 切断が終わったところでスイッチを切り、トイシの回転が完全に停止してからハンドルを持ち上げ、もとの位置にもどしてください。

トイシの取付け・取りはずし

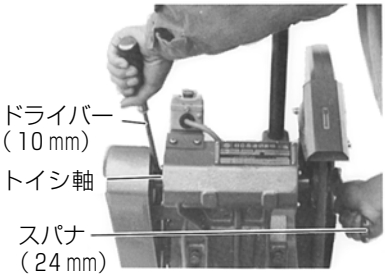
⚠ 警　告

- **万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、主電源を切っておいてください。**
- **トイシ取付けボルトがゆるまないよう確実に締付けてください。**
- **連続して切断した後、トイシを取りはずす場合、トイシが熱くなっていることがありますので注意してください。**

⚠ 注　意

- **トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。**

1．トイシの取付け方



(1) 左図のようにドライバー（10 ㎜）などをトイシ軸の穴にさし込み、トイシ軸を固定します。この状態で、スパナ（24 ㎜）をM 16 ボルト（P 8の上図参照）にかけ、左回転方向に回せば、M 16 ボルトがゆるみます。

(2) M 16 ボルト、スプリングワッシャ、ワッシャ、ホイルワッシャを取りはずします。

(3) トイシを取付けます。

(4) ホイルワッシャ、ワッシャ、スプリングワッシャ、M 16 ボルトに付いている研削粉、ゴミなどを除去し、トイシ軸にトイシを取付けます。

(5) ドライバー（10 ㎜）などをトイシ軸の穴にさし込み、M 16 ボルトにスパナ（24 ㎜）をかけて右回転方向に回せば、M 16 ボルトが締まります。

2．トイシの取りはずし方

トイシの取付け方の項の要領で、トイシを取りはずします。

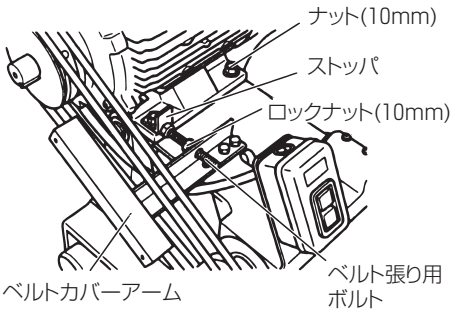
保守・点検

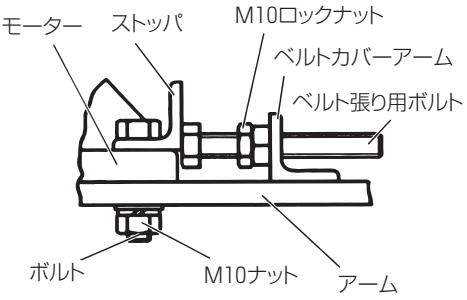
⚠ 警　告
• 点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、主電源を切っておいてください。

1．トイシの交換

トイシが小さくなり、切れ味が悪くなったものを使用するとモーターに無理をかけることになり、また能率も落ちますから早めに新品と交換してください。

2．ベルトの交換





注 • CC 16SB（3HP）（3馬力）の製品には、上左図に示すベルト張り機構はついておりません。

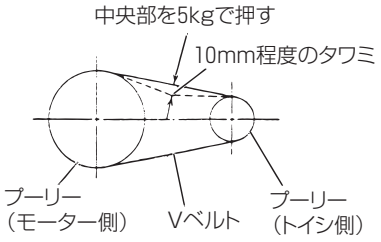
(1) ベルトカバーを固定しているM 8 ボルト（2本）をはずし、ベルトカバーをはずします。（P 8「各部の名称」下図参照）

(2) M 10 ナット（4個）をゆるめてモーターをトイシ側へ押し、ベルトをはずします。（上左図、上右図参照）

(3) 5 HP（5馬力）の製品は、上右図のようにベルト張り機構がついておりますので、ベルト張り用ボルトをゆるめてください。

3．ベルト張り

⚠ 注　意
• ベルトの張りが強すぎると、モーターや各部の損傷の原因となりますので、張りすぎないようにしてください。また、ベルトの張りが弱いとベルトがスリップし、十分な能力が得られません。



ベルトがまっすぐになるようベルトを張ってください。張り終えましたらM 10 ナット（4 個）を締付けてください。（P 20 右図参照）

ベルト張りは、左図に示すぐらいが適当です。

5 HP（5 馬力）の製品の場合（ベルト張り機構付）のベルト張りは、モーターを後方に押してベルトを張り、M 10 ナット（4 個）をモーターが移動できる程度に締付けてください。（P 20 右図、左図参照）

次に、付属のスパナ（17 ㎜）でベルト張り用ボルトを回してベルトを張ったのち、M 10 ロックナットでゆるみどめを行ってください。（P 20 右図、左図参照）

最後に、M 10 ナット（4 個）を付属のスパナ（17 ㎜）で締めつけます。

4．各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら、締め直してください。

ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

5．注　油

機体を長持ちさせるため、月一度の割で注油点に注油してください。（P 8 の図参照）（油はマシン油が適当です。）

注油点

○ヒンジの回転部
○移動バイスのスライド部
○移動バイスのスクリュー部
○スプリング

6．清　掃

ときどき機体に付いている切削粉や、ごみを布などで拭き取ってください。モーター部（P 8 の図参照）は水や油でぬらさないようにしてください。

7．機体や付属品の保管

機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- ○ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
- ○ 軒先など雨がかかったり、湿気のある場所
- ○ 温度が急変する場所
- ○ 直射日光の当たる場所
- ○ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

} このような場所には保管しない。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　月　日	製造番号(NO.)
販売店（TEL）	

全国営業拠点

お客様相談センター　※土・日・祝日を除く　9：00～17：00

●フリーダイヤル
0120-20-8822

※携帯電話からはご使用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 896-1740	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 5733-0255	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■ 営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスして最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/sales.html

WEBにアクセス

右の QRコードをバーコードリーダー機能付きの携帯端末より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

日立工機株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号（品川インターシティ A 棟）
営業本部　TEL（03）5783 - 0626（代）
電動工具ホームページ──http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

部品コード　C 99203602　N